

大道理かわら版 むくろじ

発行元
大道理夢求の里交流館
運営協議会
TEL : 0834-88-1830

平成27年
10月1日号
(No.6)



大道理地区の世帯数と人口	
世帯数	190世帯
人口	405人
男性	183人
女性	222人
(平成27年8月31日現在)	

収穫前に豊穰の祈りを込め

三嶋神社の宇多健一郎宮司からお聞きした話によると、このお祭りは、ちょうど台風シーズンである旧暦八月一日に風鎮祭として行われてきたものだそう、現在では旧暦の八月一日がだいたい八月三十一日頃だということ、毎年この日にお祭りをすることになったということです。

現在、大道理地区で八朔祭りを引き継ぎ、神社に行灯を奉納する地区は数地区となり、今回はこの中の「鹿野地」地区の八朔祭り当日の様子を取材させて頂きました！



五穀豊穰の祈りを込めて行灯を作っておられます



地区の皆さんで行灯を作ります

お祭りの前には、皆さんで朝から草刈りをして、それから神社にお納めする行灯づくりをされます。この日は雨。八朔祭りの日としては珍しいと皆さんがおっしゃっていました。皆さんでこしらえたばかりの行灯を乾かすための舞台裏風景も見ることができました。

提灯が出来上がると、皆さんで直会(なおり)の後、神社に提灯を奉納し、宮司さんのお祓いとご祈禱を受け、今年の鹿野地区の八朔祭りは無事終わりました。



直会(なおり)の風景です！



宮司さんがお祓いをされています！

神様に行灯をお供えするのは…

地区ごとに行灯を毎年こしらえて神様へお供えする意味については、行灯の灯りで、神様の御心をなぐさめ喜んでもらい、地域を守ってください、という願いをこめるといいます。こちらは神道というより仏教的ですが、あの世は真つ暗な世界だから、そこに光

が届いて導いて欲しい、という二つの意味がある、と宮司さんからお聞きしました。三嶋神社のご祭神のうち一の柱は大山祇神で、日本に元々おられた土着の神で山の神様です。(大山祇神、大己貴神、少名彦神の三神がご祭神)神社社殿東側にお祭りされている杵崎様は風の神様で、天神社の御祭神も天気を司る神様だと宮司さんがおっしゃっていました。



三嶋神社に行灯を納めました

生活と密接に関わって来た祭

八朔祭りのようなお祭りについて、米づくりや果樹、野菜作りなどの農作に適した大道理地区では、信仰の対象として生活と密接に関わる神様を祀ってこられたということや、四季ごとに行われるお祭り、春は豊穰を祈り、夏越の祭りでは家族の無病息災を祈り、秋は豊穰に感謝するということを教えていただきました。

八朔祭りの取材を通して、大道理の昔について、貴重なお話を聞かせてくださった鹿野地区の皆さん、宇多宮司さん、山本久仁夫さん、ありがとうございました。



三嶋神社お旅所。7月下旬の御田頭祭と10月18、19日の秋季大祭で御神幸が行われます。

「八朔祭り」の今と昔

現在の大道理地区の八朔祭りは、集落ごとに集まって清掃をして、行灯をつくり、直会をした後、三嶋神社に行灯を納めて、宮司さんからお祓いとご祈禱を受ける形となっていますが、大道理中村の山本久仁夫さんからお聞きした話や「大道理の昔を偲ぶ会」の故秋積博さんが編纂された「大道理の昔」という史料によると、かつて八朔祭りで「もみやま」が出た年があったそうです。(昭和二十五年)

山本さんの話によると、瀬戸兼、中村の若者もみやまの上に乗って太鼓を叩いたとおっしゃっていました。八朔祭りの一週間前から練習をして、祭りの当日を迎えられたとのこと。

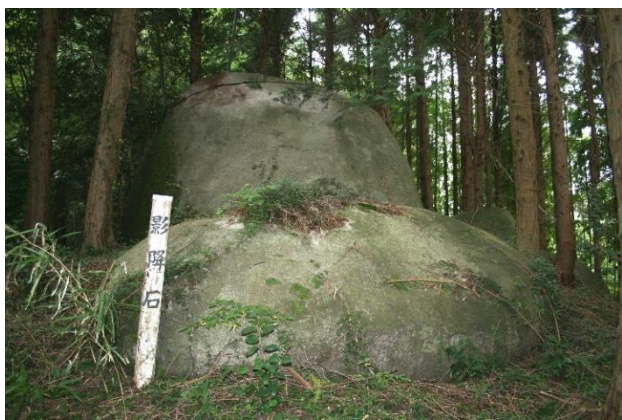
かつての御田頭祭の風景

当時の様子はお話を伺った中で想像するこゝろができませんが、今でも山本さんの記憶の中で鮮明に残っていることから、勇壮で、賑やかなものだったのだろうということが伝わってきました。

山本さんのお話や鹿野地区での直会でも、地区の方とお話した中で出たのですが、御田頭祭(「げんどう」と皆さんおっしゃっていました)というお祭りの話も現在では目にすることの出来ない祭りの風景の一つとなっています。こちらは、皆さんのお話や「大道理の昔」に書かれているところによると、「七月の下旬に農作物の豊穰と害虫除けを祈り、各部落を巡回して祝詞場で祈念した」とあり、戦前の頃は、農休日であり、農家ではかしわ餅をつくり、ゆつくり休養する日だったそうです。「暑い時期なので、日中ゆっくり休みながら部落を巡ると、お宮に入るのは夕方遅くなるため、若い人たちが、竹を切って作った高張行灯をつけて、お迎えに行くので、その行灯の火が川面に映って非常に情緒的だった」というその光景を、実際に目の当たりしてみたかったと感じます。

大道理に残る神話、伝承

大道理には、様々な史跡等がありますが、左の写真は、大道理鹿野地区の「影降石(ようこうせき)」です。ここに「大高神山の神様が降りてこられて腰を掛けた」といふ言い伝えや、三嶋神社の御神体である三つの面が天降ったとも言われる岩で、実際にするとかなりの大きさがあり、びっくりしました。



大高神山の神様が降りてこられて腰を掛けたという伝説「影降石(ようこうせき)」
場所「大道理鹿野地小字石金(いしがね)」

【災害時】不安になったら交流館へ

毎年のように、台風や豪雨災害などの自然災害によって、多くの被害が出ています。今年九月の豪雨災害での被害をテレビなどで目の当たりにして、不安にいられたり、心を痛められたりされた方も多くおられることと思います。自然災害の時、大切な事は早期避難です。大雨が降る前、風がひどく吹く前に、ご近所さん、各集落で相談しあい、早めに避難する事が大切です。



雨風が強まる前に声を掛け合って避難しましょう！

向こう三軒両となり、集落ごとのコミュニケーションを常日頃から大切にして、いざという時には声を掛け合い、助け合って、早めの避難を心掛けることが防災の基本となります。阪神淡路大震災の時、日頃から祭などの地域活動が盛んであった地域は復興も早かった、という話や、豪雨災害の時なども、日頃から地域での声かけ、あいさつが住民の間で行われていた地域では人的被害が少なく、避難の時もスムーズだったという話などからも、その大切さがよく分かります。

周南市の防災体制と地域住民への対応

【大雨、洪水、大雪、注意報、震度3の地震発生時】

○待機（勤務時間以外自宅待機）

○地域住民の対応

○気象情報に注意をし、状況により、近所の高齢者の方にいざという時の為の避難に備えて声かけ等をする。

【暴風・大雨・洪水・大雪警報・震度4以上地震発生時】

○関係する各支所職員等を

○夢求の里交流館に配備

○地域住民の対応

○気象情報等に注意し、川等が氾濫又は土砂崩れが起きる前に近所等に声を掛け早めに夢求の里交流館に避難。但し自主避難の場合は寝具、食料をご持参下さい。



自主避難の時は食料寝具をご持参ください

大道理をよくする会からのお知らせ

夢求の里交流館の草刈りとグラウンドの草取り作業

日時：10月10日（土）

場所：大道理夢求の里交流館 グラウンド
★お手伝いをお願いします

大道理地区福祉運動会

日時：10月18日（日）

場所：大道理夢求の里交流館運動場
★どなたでも参加できる競技を考えています。

お楽しみ抽選会もあります。ご近所お誘い合わせて、多数ご参加お願いします！



夢求の里交流館からのお知らせ

ミニサロンのお知らせ

日時：10月14日（水）

場所：大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者：男女年齢問わず どなたでも歓迎
備考：ご希望の方は、送迎をいたします

サロンのお誘い

日時：10月28日（水）

場所：大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者：男女年齢問わず どなたでも歓迎
ご希望の方は、送迎をいたします



旬の大道理野菜を美味しく！

“今子さんの”「茄子の辛子漬け」

九月初旬。井上館長から茄子を沢山（5キロ！）頂きました。せっかく頂いた茄子を使って、今回、大道理中村の山本今子さんから「茄子の辛子漬け」のレシピを教わり、山本並子さんと一緒に交流館で茄子の辛子漬けを作りました。はじめは5キロもした（涙）、ミニサロンで来られていた福祉部の森藤さん、荒美さんに塩漬けにするまでの方法を教わり、漬けこんだところでもずはひと安心！

二晩寝かせてから、「今子さん流茄子の辛子漬け」に支所の山本並子さんとともに人生初チャレンジ！ 味見をされた井上正彦向道支所長や山田憲正事務長をうならせるツンと刺激的な辛さ（！）の茄子の辛子漬けが完成しました！



茄子の辛子漬けレシピ

【材料】

- ナス…5kg 塩 450g
はちみつ 180cc 砂糖 600g
醤油 180cc 焼酎 300cc
からし粉 90g みょうばん少々

【作り方】

- ① 茄子は5mm巾の半月切にし、半日水に浸してあく抜きする。
② ①を塩に2日ほど漬ける（みょうばんを入れると色がきれい）
③ ②は洗わずによく絞る。
④ Aを鍋に入れ、砂糖が溶ける程度に煮る。
⑤ からし粉をおわん等に入れ、水で練ってふせておく。（辛くなる）
⑥ Aと辛子を混ぜ、よく絞った茄子を入れて混ぜ、ビンに詰める。

編集後記

「むくろじ」十月一日号は八朔祭り特集、という事で、前日の八月三十日には個人的に「むくろじ」をして取材に臨みました。テレビなどで、お祭りの番組を観ると、神事の前には参加する人々が冬の荒海の冷たい水の中で身を清める姿を時々目にします。私も神聖な神事を前に、一日取材で同じ時を過ごさせて頂くのであればと、大寒褌のような一決心を要するよう前日、光の虹ヶ浜へ。海に入るのではなく、砂に潜る砂浴に人生初、臨みました。昔「フグの毒にあたらしたら砂に潜って毒を出せ」という話もあつた。砂浜を散歩中であつた女性たちの声が聞こえてきて若干切ない気持ちになりました。段々と腸のあたりがグググと動いてきてなんだか心地良くなつて来ました。毎回「むくろじ」編集後記のぼやきが多い私ですが、「これでぼやきが減るかも」と淡い俗な期待も砂の中へ。砂から出て帰宅してしばらく、内臓に溜まった何某かの老廃物が出たためか、赤い発疹が背中や両腕に出て、「よし！ 出た出た！」と妙な充足感を覚えた砂浴と「なりました。そして八朔祭りですが、当日は雨。神事に密着取材ということ、緊張しながら行灯づくりの会場である自治会館へ。行灯づくりも雨の湿気です。いつもと勝手が違っている様子でしたが、皆さんの行灯づくりを目の当たりに出来、直会では、地区の方お一人お一人とお話することができました。直会が終わって、皆さんで行灯を納めに神社へ行って、宮司さんからお祓いとご祈禱を受けられた後で、宮司さんが大道理の歴史や、祭りの意義などについて色々教えてくださり、今回の「むくろじ」にも宮司さんから聞き出したお話を掲載させて頂いています。鹿野地区の皆さん、宇多宮司さん、八朔祭りについてお話ししてくださいました。山本久仁夫さんありがとうございまして！ 今回の八朔祭り特集の歴史や昔の話などを色々な方から今聞き出したものを形にして下さる。定として、少しづつお伝えしていく予定です。（山縣清子）